

## 着任挨拶

### 久保亮介 研究員



2017年4月より農国センターの研究員として着任致しました。前年度までは、サハラ以南アフリカ（タンザニアおよびカメルーン）における酒造技術およびその醸造メカニズムの解明をテーマとして、研究に取り組んでいました。4月10日よりJICA草の根技術協力事業「カンボジアにおける農産物・加工品の安全性向上プロジェクト」の現地調整員としてカンボジアに滞在しています。本事業において私は、日本人専門家とカンボジア人現地スタッフの連携を図りながら、カンボジアにおける米蒸留酒や野菜などの安全性・品質向上に取り組んでいます。新しい土地での生活や初めて経験する業務に戸惑うこともあるものの、新しい経験を楽しみながら日々勉強する毎日を送っています。一生懸命任務に取り組みますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

**略歴** 1986年生まれ。2009年北里大学獣医学部卒業。2011年京都大学大学院地球環境学舎修士課程修了。2015年同大学院博士課程単位終了満期退学。2015年5月博士（地球環境学）取得。2014年日本学術振興会（学振）特別研究員DC2（～2015）。2015年学振PDに資格変更（～2016）。2015年タンザニア・ソコイネ農業大学訪問研究員（～2016）。2016年京都大学大学院地球環境学舎研究員（～2017）。

## 学術雑誌「農学国際協力」Vol.15のご案内 ～ 一編の論文が、人の活動を促すことがある ～

この度、最新号Vol.15を公開いたしましたのでご案内いたします（URL：<https://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/jpn/journal/backnumber.html>）。本号より「ケースレポート」を、農学国際協力の現場や農学教育の現場で取り組まれている課題や成果（途中成果も含む）の発表を目的とした「ワーキングペーパー」と、最新のデータや情報を広く発信することを目的とした「フィールドレポート」の2種類に分けることとしました。これにより、国際協力の専門家や研究者だけでなく、ボランティアやNPO関係者など、より多くの方々からの情報やデータが、この雑誌を媒体として広く共有され、また蓄積されることを願っています。

本号では、JSTとJICAがともにサポートする「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の現状と期待」について、現JICA国際協力専門員の浅沼先生にご寄稿頂きました。また、名大アジアサテライトキャンパス学院長の磯田先生には、「大学の機能分化と新たな国際協力の在り方」について総説として纏めて頂いております。加えて、フィリピンの貧困漁村における漁業資源に関する原著論文や、上述の「ワーキングペーパー」、「フィールドレポート」、および「国際人材」に関する記事を掲載しております。

また、本号の巻頭言はJISNAS委員長の緒方先生にご執筆頂きました。「一編の論文が、人の活動を促すことがある。」との緒方先生の言葉を常に胸に抱き、今後も皆様の国際協力活動のお役に立てる記事の掲載を目指す所存です。皆様からのご投稿を心よりお待ちしております。（犬飼義明）

## オープンセミナー（2016年12月～2017年5月）

回数	日時	テーマ	講師	所属
2016年度 第5回	2016年 12月13日	インドネシアの低生産地域における 農業生産性の改善に向けた取り組み	ルジト・A・スウィグニョ	インドネシア・スリウィジャヤ大学農学部 教授/ICCAE 客員教授
第6回	2017年 3月9日	持続的農業のためのイネ育種におけるアフリカ 野生イネ <i>Oryza longistaminata</i> の持つ可能性	エミリー・ギチュヒ	岡山大学大学院環境生命科学研究科 博士課程後期課程
第7回	2017年 3月13日	海外農業経営調査の実際	内山 智裕	東京農業大学国際食料情報学部教授/ ICCAE 客員准教授